

■各学年の実践報告：第1学年

1 生徒の実態

4月のアンケート結果では、「A主として自分自身に関すること」の数値が全体的に低かった。1学年の生徒は、言われたことをこなし、やるべきことはきちんと行える生徒が多く、よりよく生きたいという思いもある。しかしその反面、受動的で、何かを自分で判断する際にどう行動してよいかわからない生徒が多かったり、自分から率先して何かを変えようと動く生徒が少なかったりする。特に最近は新型コロナウイルスの影響で、各行事が縮小されるなどして、そのような行動が求められる機会も減ってしまっている。

また、中学1年生では、何かを自分で判断し行動する際に、頭ではわかっている、感情を抑えられずに自分本位の行動をしてしまったり、周囲に対する責任までは考えられなかったりすることが多い。そこで、11月の一斉道徳では内容項目「真理の探究・創造」で、“自主的に考える際には、集団や社会との関わりにおいて、いろいろなものの見方や考え方があることを理解したうえで自分で判断し、自身の決定に責任を持つ態度を育成する”ことをねらいとして、授業を行った。

2 仮説に対する手立てと実践

仮説1「効果的な発問を工夫すれば、議論に発展させることができるだろう」の手立てとして、まず、予想される生徒の反応を学年職員で出し合い、生徒の意見に揺さぶりをかけるような切り返しの発問を用意した。また、議論が堂々巡りになってしまったり、話がそれてしまったりした際に、教師が生徒の気づいていない視点を与えたり、少数派の手助けをしたりすることで、議論が活発になるように促した。議論の前には、「自分と反対意見の人を納得させられるように」とあらかじめ伝え、同じ意見の人たちで議論の材料を揃えさせておくことで、議論がより活発に行われるような工夫もした。



仮説2「考えを視覚化するツールを工夫すれば、多様な意見を引き出し、考えを広げ深めることができるだろう」の手立てとしては、数直線を用いて、黒板に自分の気持ちの位置を示させることで、クラス全員の意見を共有できるようにした。また、完璧にどちらかの意見に寄り切れない、微妙な気持ちがあることも捉えられるようにした。



仮説3「資料の掲示や授業形態の工夫をすれば、見通しをもって粘り強く取り組むことができるだろう」

に対しては、実際の資料の映像を流すことで、話して伝えるより、その場面をイメージしやすくした。授業の終末でも、登場人物たちの10年後の映像を流した。授業形態については、机を反対意見の人と向き合うようにすることで、議論がしやすい形態をとった。

また、授業後に道徳コーナーを設け、他クラスの意見を知ったり、自分の学びを生徒がフィードバックしたりもできるようにした。



3 検証結果の分析

授業をとおして、内容項目「真理の探究・創造」では実施前と実施後で、アンケートから+0.06 数値の向上が見られた。生徒のワークシートでは「～という意見をきいて、考えが変わった」という記述もみられ、議論の活性化の結果、今まで自分になかった視点や価値観を得た生徒も少なくないと思う。

また、アンケート全体の数値の平均をみると、4月から12月で約+0.07の向上が見られた。特に、「A自分自身について」の内容項目では、すべての項目で数値が向上した。しかし、「D生命や自然、崇高なものとの関わりについて」では、3つの項目で数値が減少した。これは、3学期に行う授業の内容項目であり、まだその授業をおこなっていないため、意識が低下した側面もあると考えられる。

授業で扱ったにも関わらず下がってしまったのは、「遵法精神」のみである。これは、1, 2学期に実施した行事などをととして、ルールを守れない生徒が出てきたり、その実態が顕著になったりするなど、普段の学校生活の影響などもあると考える。道徳の授業以外でも、できる取り組みを考え対処していきたい。

授業アンケートでは、10の項目すべてにおいて、5と4が半数以上を占めた。(1)、(2)、(3)の項目で5と4が8割を超えており、この結果から、授業の工夫によって自分の考えを多面的・多角的に捉えたり、自分の考えを深めたりすることができたと判断できる。

項目の中で(4)と(5)が60%台と5, 4の割合が最も低く、課題が残った。これは、視覚的ツールの工夫に関わることである。ローテーション授業を行う中で、教員によって視覚的ツールを使ったり使わなかったりしており、1年生ではその使用頻度が十分でなかったと考えられる。ICTの活用についても、まだ模索段階であり、今後積極的に活用していくことで、より効果的な使用方法を検討していく必要がある。また、情報共有をしっかりと行い、教員間で連携を図ることで、授業に差が生まれないようにする。

8割を超えなかった(8)、(9)の「道徳コーナー」については、今後掲示頻度を増やしたり、掲示場所を検討したりして、内容とともにより充実したものとしていきたい。他の項目についてもすべての項目で8割以上を目標として、引き続き学校全体で取り組んでいく。

第1学年 授業アンケート結果		■ 5	■ 4	■ 3	■ 2	■ 1
(1)	道徳の授業では自分の考えを伝え、友達と議論することができた。	76	91	22	2	2
(2)	先生の問いかけによって考えを深めたり、友達と話し合うきっかけが生まれたりした。	73	89	26	3	2
(3)	友達の意見を聞いて違った角度からも考えたり、自分の考えをより深めたりすることができた。	81	85	21	4	2
(4)	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも自分の考えが伝わりやすかった。	60	59	54	16	3
(5)	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業よりも友達の考えがよく伝わった。	57	68	52	12	3
(6)	パワーポイント、動画資料、場面絵などを使った授業では、使わない授業よりも内容がよく理解できた。	67	70	48	4	3
(7)	道徳の授業で自分自身の生き方の課題と向き合うことができた。	78	80	28	5	2
(8)	「道徳コーナー」を見て、同じ学年の仲間の多様な考えに触れることができた。	71	79	29	3	5
(9)	「道徳コーナー」を見て、自分自身の課題に向き合おうという気持ちになった。	66	76	33	10	7
(10)	今自分は、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。	83	62	36	9	3

第1学年 内容項目アンケート結果 (4段階評価)

番号	内容項目	質問内容	4月	7月	12月	4月⇒12月 差
1	自主、自律、自由と責任	自分で考えて判断し、結果に責任をもつことができた。	2.79	3.07	3.19	+0.40
2	節度、節制	健康で安全な生活を心がけた。	3.34	3.46	3.45	+0.11
3	個性の伸長、向上心	自分自身を理解し、個性を伸ばすことができた。	2.85	3.08	3.17	+0.32
4	希望と勇氣 克己と強い意志	目標を設定し、やりとげることができた。	2.87	2.99	3.06	+0.19
5	真理の探究、創造	真実を大切にし、新しいものを生み出そうと努めた。	2.92	3.01	3.07	+0.15
6	思いやり、感謝	思いやりや感謝をもって人と接することができた。	3.52	3.51	3.52	0
7	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場合に応じたふるまいができた。	3.41	3.44	3.45	+0.04
8	友情、信頼	友情の尊さを理解し、人間関係を深めることができた。	3.37	3.42	3.48	+0.11
9	相互理解、寛容	自分の意見や考えを伝え、他人の考えをきちんと聞くことができた。	3.13	3.36	3.36	+0.23
10	遵法精神	法や決まりの意義を理解し、守ることができた。	3.43	3.49	3.37	-0.06
11	公正、公平、社会正義	差別や偏見をもたず、公平にふるまうことができた。	3.5	3.52	3.48	-0.02
12	社会参画、公共の精神	公共の精神をもち、社会のために役立つことができた。	2.93	3.01	3	+0.07
13	勤労	労働の尊さと意義を理解し、将来の生き方を考えることができた。	3.05	3.18	3.24	+0.19
14	家族愛、家庭生活の充実	家族の一員としての自覚をもって行動できた。	3.37	3.38	3.37	0
15	よりよい学校生活 集団生活の充実	集団の中での自分の役割と責任を自覚して行動できた。	3.34	3.4	3.43	+0.09
16	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	2.99	3.01	3.03	+0.04
17	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	3.2	3.08	3.07	-0.13
18	国際理解	世界の中の日本人としての自覚をもつことができた。	3.39	3.22	3.14	-0.25
19	生命の尊さ	生命の尊さを理解し、尊重することができた。	3.58	3.55	3.57	-0.01
20	自然愛護	自然環境の大切さを理解し、行動できた。	3.53	3.53	3.49	-0.04
21	感動、畏敬の念	美しいものや気高いものに感動する心をもつことができた。	3.24	3.36	3.43	+0.19
22	よりよく生きる喜び	よりよく生きたいと思うことができた。	3.62	3.56	3.48	-0.14

■各学年の実践報告：第2学年

1 生徒の実態

本校では市内小学校2校から入学し、入学後、新型コロナウイルス感染症の対応をしながらの生活を強いられたが、これまでと違った環境、新たな集団の中で1年間を力強く過ごした。2年生になりその集団生活をよりよくしていくために、宿泊学習などの取組を行った。また学年目標「心を想う」を念頭に、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター、人権感覚育成プログラムを活用した人権学習、学級組織を活用した学年の取組など、他者を想える人間関係作りに努めてきた。

4月のアンケート結果では、A 自分自身について「4目標を設定し、やりとげることができる」の項目の数値が低かった。全体的な傾向として目標を設定し計画を立てて取り組むことが苦手な生徒が見られる。定期テストで思い通りの結果や成績を残すことができず、困難に直面した時に、自ら立ち向かわずに逃げてしまう生徒もいる。これらの結果を踏まえ学年では、「隻腕のメジャーリーガー」の資料を通して自分で決めた目標達成に向けて、困難に屈せず粘り強く最後までやり抜く態度を育てたいと考え本題材を設定し学年で実践した。

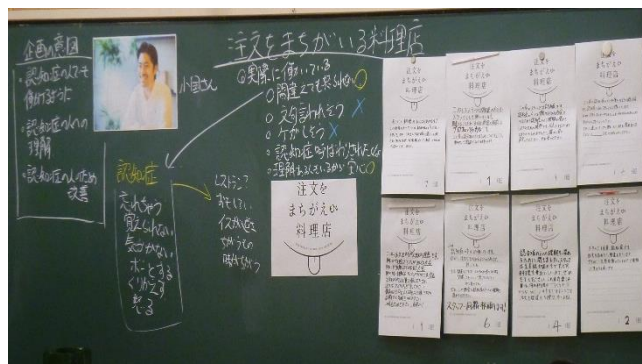
2 仮説に対する手立て

仮説1「効果的な発問を工夫すれば、議論に発展させることができるだろう」の手立てとして、資料分析を行い自分ごととして考えたいような発問を提示しながら授業を行った。また、互見授業から授業のフィードバックシートより、他教員から対話を促す発問についての具体的なコメントをもらうことで更により良い発問に工夫改善することができた。また、多面的、多角的な考えを持たせられるような発問を設定し、T2・T3を活用して議論を発展させた。授業後の生徒の感想からも、「資料について深く考えることができた。」「自分ごととして考えられた。」「様々な考え方があり勉強になった。」という感想が見られた。



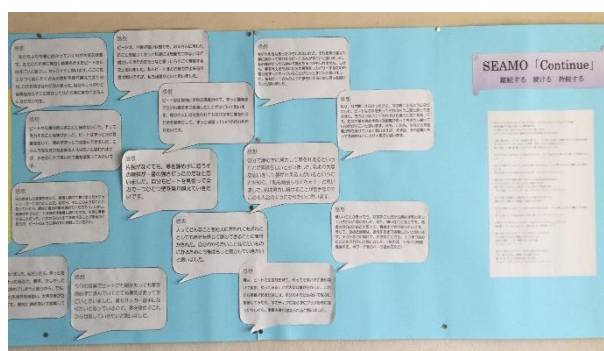
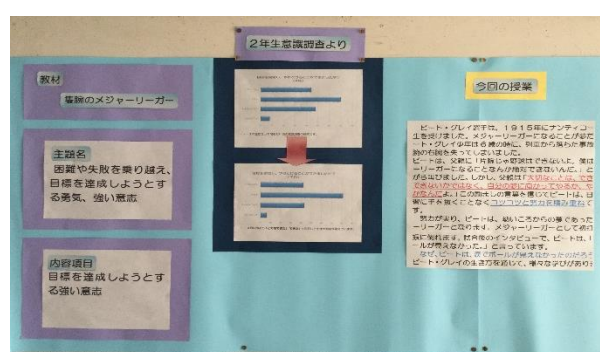
仮説2「考えを視覚化するツールを工夫すれば、多様な意見を引き出し、考えを広げ深めることができるだろう」の手立てとして、事前アンケートの結果ではICTを活用しながら生徒の意見を全体に共有させた。また、Sli.doを活用し、発問の考えを視覚化できるようにした。まずこれらの実践において効果的であったのは、視覚化することで個々の意見を全体で共有することが明確になったことである。画面を通じて生徒全員が視覚化できることは非常に効果的であると考えます。普段から意見を言えない生徒がSli.doを活用することで自分の意見を言えることが効果的であった。生徒の道徳アンケートでは、「心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツールなどを使った授業では、使わない授業よりも自分の考えが伝わりやすかった」の回答（5段階評価）で5の生徒の

割合は84%、「パワーポイント、動画資料、場面絵などを使った授業では、使わない授業よりも内容がよく理解できた」の回答で5の生徒の割合は85%と、ICTを使用することで自分の考えが伝わる、内容理解が効果的であったことが分かる。このことより、ICTを活用して視覚化を図ることで、多様な意見を引き出し生徒の考えを深められるツールであることが実践や生徒の道徳アンケート結果より分かった。



仮説3「資料の掲示や授業形態の工夫をすれば、見通しをもって粘り強く取り組むことができるだろう」の手立てでは、資料の内容や生徒の感想が視覚的に分かるように学年のフロアに道徳コーナーを設けた。道徳的価値を意識させるために、板書の工夫やパワーポイントによる資料提示など生徒が見通しを持って取り組めるような手立てを実践した。また、道徳後に学級通信や朝の会や帰りの会等で生徒の感想を取り上げることで多様な意見があることに気づかせるようにした。

生徒のアンケートによる項目では、「道徳コーナー」を見て、同じ学年の仲間の多様な考えに触れることができた」の回答（5段階評価）で5と回答した生徒の割合が63%、「道徳コーナー」を見て、自分自身の課題に向き合おうという気持ちになった」の回答で5と回答した生徒の割合は46%であった。「今自分は、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。」の回答で5と回答した生徒の割合が62%であった。これらの実践より、道徳後のフィードバックをしっかりと行うことで、より生徒自身の道徳的心情が深まり多様な考え方に触れることで自己の生き方について考えられ道徳的实践力に繋がっていくのではないかと考える。



3 検証結果の分析

これらの実践より、4月に行って低い数値であった、A 自分自身について「4目標を設定し、やりとげることができる」の項目では、4月では、2.87% 7月では、2.92%、12月では、3.17%と4月から12月まで+0.30の数値が向上した。

成果としては、学年教員が統一してICTを活用した授業を行うことで、授業の内容が分かりやすくなったり、多様な意見を知ることによって多面的・多角的な考えができるようになったりしたことである。また、視覚化や、授業後のフィードバックを丁寧に行うことで生徒の道徳的価値が深まり、よりよく生きようと考えたり行動したりできる道徳実践力の育成につながっていくことも、これらの実践を通じて確認することができた。

今後の課題としては、ICTの活用時の不備等があり必要以上に時間がかかり、展開の時間が十分に確保できなかった授業があったことである。教員同士の研修の機会を設け、更に効率的なICTの活用を工夫改善していきたい。また、本校では、道徳ローテーションを行っているので、互見授業を行い授業についてのフィードバックを教員同士で活発に行うことで、それぞれの授業力向上につながっている。今後も継続して更なる道徳授業力の研鑽をしていきたい。

第2 学年 授業アンケート結果		■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1				
(1)	道徳の授業では自分の考えを伝え、友達と議論することができた。	69 68 19 8 4				
(2)	先生の問いかけによって考えを深めたり、友達と話し合うきっかけが生まれたりした。	63 59 27 12 4				
(3)	友達の意見を聞いて違った角度からも考えたり、自分の考えをより深めたりすることができた。	82 52 22 1 1				
(4)	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも自分の考えが伝わりやすかった。	84 43 34 1 1				
(5)	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業よりも友達の考えがよく伝わった。	72 49 36 6 1				
(6)	パワーポイント、動画資料、場面絵などを使った授業では、使わない授業よりも内容がよく理解できた。	85 52 24 1 1				
(7)	道徳の授業で自分自身の生き方の課題と向き合うことができた。	61 57 33 11 3				
(8)	「道徳コーナー」を見て、同じ学年の仲間の多様な考えに触れることができた。	63 47 38 15 2				
(9)	「道徳コーナー」を見て、自分自身の課題に向き合おうという気持ちになった。	46 49 54 13 3				
(10)	今自分は、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。	62 64 32 6 1				

第2学年 内容項目アンケート結果 (4段階評価)

	番号	内容項目	質問内容	4月	7月	12月	4月⇒12月 差
A	1	自主、自律、自由と責任	自分で考えて判断し、結果に責任をもつことができた。	2.97	3.13	3.36	+0.39
	2	節度、節制	健康で安全な生活を心がけた。	3.33	3.44	3.53	+0.20
	3	個性の伸長、向上心	自分自身を理解し、個性を伸ばすことができた。	2.94	3.12	3.3	+0.36
	4	希望と勇氣 克己と強い意志	目標を設定し、やりとげることができた。	2.87	2.92	3.17	+0.30
	5	真理の探究、創造	真実を大切にし、新しいものを生み出そうと努めた。	2.98	3.14	3.17	+0.19
B	6	思いやり、感謝	思いやりや感謝をもって人と接することができた。	3.5	3.49	3.58	+0.08
	7	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場合に応じたふるまいができた。	3.52	3.47	3.57	+0.05
	8	友情、信頼	友情の尊さを理解し、人間関係を深めることができた。	3.38	3.46	3.52	+0.14
	9	相互理解、寛容	自分の意見や考えを伝え、他人の考えをきちんと聞くことができた。	3.33	3.4	3.54	+0.21
C	10	遵法精神	法や決まりの意義を理解し、守ることができた。	3.54	3.42	3.58	+0.04
	11	公正、公平、社会正義	差別や偏見をもたず、公平にふるまうことができた。	3.46	3.48	3.6	+0.14
	12	社会参画、公共の精神	公共の精神をもち、社会のために役立つことができた。	3.13	3.03	3.33	+0.20
	13	勤労	労働の尊さと意義を理解し、将来の生き方を考えることができた。	3.04	3.19	3.41	+0.37
	14	家族愛、家庭生活の充実	家族の一員としての自覚をもって行動できた。	3.37	3.41	3.45	+0.08
	15	よりよい学校生活 集団生活の充実	集団の中での自分の役割と責任を自覚して行動できた。	3.35	3.38	3.51	+0.16
	16	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	3	3.02	3.29	+0.29
	17	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	3.08	3.09	3.28	+0.20
	18	国際理解	世界の中の日本人としての自覚をもつことができた。	3.39	3.18	3.44	+0.05
D	19	生命の尊さ	生命の尊さを理解し、尊重することができた。	3.55	3.51	3.63	+0.08
	20	自然愛護	自然環境の大切さを理解し、行動できた。	3.54	3.4	3.6	+0.06
	21	感動、畏敬の念	美しいものや気高いものに感動する心をもつことができた。	3.46	3.37	3.56	+0.10
	22	よりよく生きる喜び	よりよく生きたいと思うことができた。	3.59	3.52	3.67	+0.08

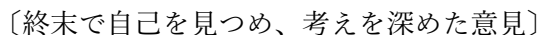
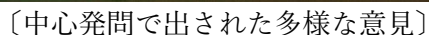
1 生徒の実態

本学年は入学当初から「Green for All. All for Green.」を学年目標とし、仲間のために行動できることを重点に生活してきた。アンケート結果からも他者への配慮ができる生徒が多いことがわかる。学期の節目には様々な場面で集団に貢献した仲間を表彰し、折に触れてエンカウンターを行うことで他者と関わりあう場面を積極的に設けてきた。生徒の間には仲間を承認する雰囲気、多様な個性を受容する姿勢がある。一方で、集団生活の中で望ましくない言動があったときに同調してしまう一面も見受けられる。「A 自分自身に関すること」の値が低いことから、自分と向き合い律することや、自分たちの生活をより良くしようとする目標設定や創意工夫に課題があるといえる。さらに、進路選択の時期を迎え、夢や目標に向かってやり抜く大切さに気付いているものの、なかなか実行できない自分自身を認識していることも考えられる。

2 仮説に対する手立てと実践

実在する人物を資料に取り上げる際、「この人だからできた」と他人事として捉えてしまうことは少なくない。そこで、いかに三浦氏に自我関与させられるかに留意し、次のように発問を構成した。

- 生徒から出された多様な意見は「道徳コーナー」に掲示し、共有できるようにした。

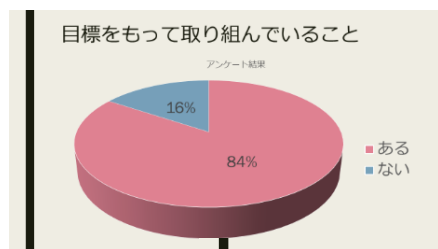


◆パワーポイントの活用

授業の導入の際に**事前アンケートの結果**を提示した。お互いに夢や目標をもって生きていることを自覚させるとともに、目標を達成することの困難さを共有することをねらいとした。

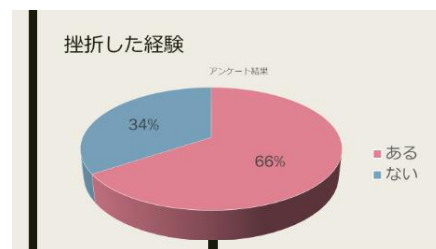
【アンケート内容】

①目標をもって取り組んでいることはあるか ②目標をもって取り組んでいる中で挫折した経験はあるか



目標をもって取り組んでいること

- 今より速く走る
- 画力を商業レベルまでアップさせる
- 相手の気持ちをより深く理解する
- 期末テストで高得点
- 偏差値〇〇アップ
- 志望校合格



挫折したのは...

- 習い事。がんばって何回も練習したのに全く上達しなかった
- 大会でタイムが伸びなくて順位も悪かった
- 選抜チームに行って周りの上手さに圧倒された
- 上手くプレーできなくて
- 負け続けたので断念した
- 試合での失敗が負けにつながって
- 足のケガで運動するのがこわくなった

◆心情円の活用

発問①「目標を掲げた三浦さんに不安はなかったのか問う場面」で活用した。

心情円を活用することで微妙な気持ちを推し量れるようにし、どのくらいの割合で不安があるか、不安より勝っている気持ちは何か等に着目させることができた。

仮説3「資料の掲示や授業形態の工夫をすれば、見通しをもって粘り強く取り組むことができるだろう」では、導入と終末で三浦雄一郎氏の映像を視聴した。

特に終末の映像では、最近の三浦氏の映像を紹介した。高齢で大病を患ってもなお東京オリンピックの聖火ランナーを務めるためにリハビリに励む姿と達成した姿を視聴することで、あきらめずに人生を切り開いていこうとする姿勢を迫体験できるようにした。授業後の感想には、「三浦さんの姿に感動した」という言葉も見られた。

道徳コーナーには、昨年甲子園出場を果たした卒業生からのメッセージを掲示した。メッセージは『誰にも将来どうなるかっていうのは、わかりません。でも“目標をもってやれば、そうなれる”と信じて進むしか道は拓けません。今がつらくても、必ず良い将来があると信じてみなさん一緒にがんばっていきましょう。』という内容で、多くの生徒の心に響いた。

以上のような取り組みの他に、日ごろの授業でも場面絵の活用や役割演技を取り入れなるなどの工夫をしている。



3 検証結果の分析

一斉道徳を終えた12月の道徳アンケートでは、内容項目A4の数値が4月と比べて0.26上昇した。これは、授業で主人公の『目標を達成するための思いや行動』を軸に動画資料などを適宜提示しながら進め、主人公の生き方を受けながら発問の工夫をしたことや、目標を達成した卒業生からのメッセージを終末等で伝え、高い目標を達成するために努力している人が身近にいることを実感させられたことが有効であったと考えられる。授業の最後には、生徒は自分が達成したい目標とそのためにすべきことを具体的にイメージしながらワークシートに記入できていた。また、「自分としっかり向き合い、今自分は目標に対して何をすべきなのかを考えて行動していこうと思った。」という感想も見られた。授業アンケート結果からも、項目(3)(6)は5と4を選択した生徒が多く、授業の手立てが有効であったと考えられる。さらに、2学期はスポーツフェスティバルや修学旅行など学級や学年で活動する機会も多くあり、行事の成功を通して内容項目の価値を実感した生徒も多かったのではと考える。

研究主題に関わる内容項目D22は、全体的にみると1年間を通して3.5以上を保っているものの、4月と比べて0.12減少した。受験が近づくにつれ、先が見えない不安が大きく、数値にも影響しているのではないかと考えられる。進路決定後も「よりよく生きたい」と前向きな気持ちを持って卒業を迎えられるよう、学年での取り組みを工夫していきたい。

今後の課題としては、授業アンケートにおいて(4)(5)(8)(9)の項目で5と4を選択した生徒が他の項目と比べ少なかったことから、(4)(5)については、心情円やホワイトボードを活用しての意見共有後に、教師からの問い返しを多様にして生徒の意見を支える思いを問い、クラス全体で考えられるようにしていく。(8)(9)に関しては、授業内だけにとどまらず、授業後も道徳コーナーや道徳通信を通して道徳的価値に触れ、仲間の多様な考えを知り、自分自身を振り返る機会を増やしていきたい。

第3学年 授業アンケート結果	■ 5	■ 4	■ 3	■ 2	■ 1
(1) 道徳の授業では自分の考えを伝え、友達と議論することができた。	83	59	18	2	2
(2) 先生の問いかけによって考えを深めたり、友達と話し合うきっかけが生まれたりした。	80	65	17	3	3
(3) 友達の意見を聞いて違った角度からも考えたり、自分の考えをより深めたりすることができた。	98	48	15	3	3
(4) 心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも自分の考えが伝わりやすかった。	52	56	46	7	4
(5) 心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業よりも友達の考えがよく伝わった。	54	54	48	4	5
(6) パワーポイント、動画資料、場面絵などを使った授業では、使わない授業よりも内容がよく理解できた。	83	54	22	2	2
(7) 道徳の授業で自分自身の生き方の課題と向き合うことができた。	75	68	17	5	5
(8) 「道徳コーナー」を見て、同じ学年の仲間の多様な考えに触れることができた。	59	57	39	7	5
(9) 「道徳コーナー」を見て、自分自身の課題に向き合おうという気持ちになった。	52	60	44	6	3
(10) 今自分は、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。	79	62	19	2	2



第3学年 内容項目アンケート結果 (4段階評価)

番号	内容項目	質問内容	4月	7月	12月	4月⇒12月 差
1	自主、自律、自由と責任	自分で考えて判断し、結果に責任をもつことができた。	3.02	3.51	3.34	+0.32
2	節度、節制	健康で安全な生活を心がけた。	3.4	3.58	3.57	+0.17
3	個性の伸長、向上心	自分自身を理解し、個性を伸ばすことができた。	3.01	3.31	3.22	+0.21
4	希望と勇気 克己と強い意志	目標を設定し、やりとげることができた。	2.79	3.22	3.05	+0.26
5	真理の探究、創造	真実を大切にし、新しいものを生み出そうと努めた。	2.99	3.27	3.18	+0.19
6	思いやり、感謝	思いやりや感謝をもって人と接することができた。	3.5	3.61	3.63	+0.13
7	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場合に応じたふるまいができた。	3.5	3.63	3.56	+0.06
8	友情、信頼	友情の尊さを理解し、人間関係を深めることができた。	3.4	3.56	3.55	+0.15
9	相互理解、寛容	自分の意見や考えを伝え、他人の考えをきちんと聞くことができた。	3.36	3.54	3.51	+0.15
10	遵法精神	法や決まりの意義を理解し、守ることができた。	3.61	3.59	3.57	-0.04
11	公正、公平、社会正義	差別や偏見をもたず、公平にふるまうことができた。	3.42	3.7	3.52	+0.10
12	社会参画、公共の精神	公共の精神をもち、社会のために役立つことができた。	3.15	3.4	3.24	+0.09
13	勤労	労働の尊さと意義を理解し、将来の生き方を考えることができた。	3.09	3.35	3.4	+0.31
14	家族愛、家庭生活の充実	家族の一員としての自覚をもって行動できた。	3.41	3.51	3.35	-0.06
15	よりよい学校生活 集団生活の充実	集団の中での自分の役割と責任を自覚して行動できた。	3.35	3.56	3.45	+0.10
16	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	2.91	3.25	3.06	+0.15
17	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本の伝統と文化を理解し、大切にすることができた。	3.05	3.34	3.14	+0.09
18	国際理解	世界の中の日本人としての自覚をもつことができた。	3.21	3.29	3.18	-0.03
19	生命の尊さ	生命の尊さを理解し、尊重することができた。	3.6	3.6	3.58	-0.02
20	自然愛護	自然環境の大切さを理解し、行動できた。	3.57	3.6	3.54	-0.03
21	感動、畏敬の念	美しいものや気高いものに感動する心をもつことができた。	3.49	3.5	3.53	+0.04
22	よりよく生きる喜び	よりよく生きたいと思うことができた。	3.69	3.58	3.57	-0.12